

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.317

2021.10/21 (木曜) 15:00 発表

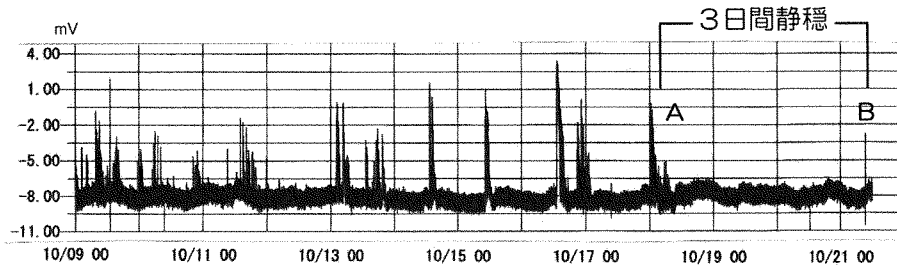
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778 長期変動 続報 K1 10/21 現在まだ静穏基線電圧値に復帰せず CH29 3日間静穏継続後再び変動 11月16日以降の可能性 但し発生近い可能性高い

極大8/8.0認識

10/22 以降 終息→11月17日以降

図1 CH29
特異変動
10/9 00h~
10/21 12h



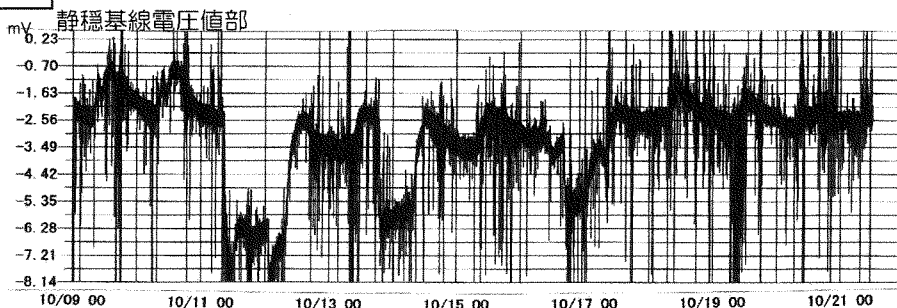
下各日の午前発生の場合の
CH29変動終息日

11/17発生の場合	=10/22.3±
11/18発生の場合	=10/23.1±
11/19発生の場合	=10/23.8±
11/20発生の場合	=10/24.6±
11/21発生の場合	=10/25.3±
11/22発生の場合	=10/26.0±

極大8/13.0認識

10/22 以降 終息→11月15日以降

図2 K1
特異変動
10/9 00h~
10/21 12h



下各日の午前発生の場合の
K1変動終息日

11/17発生の場合	=10/23.6±
11/18発生の場合	=10/24.4±
11/19発生の場合	=10/25.1±
11/20発生の場合	=10/25.8±
11/21発生の場合	=10/26.6±
11/22発生の場合	=10/27.3±

No.1778長期継続前兆変動は、八ヶ岳のCH29の変動が継続したため、10月中発生の可能性は考えにくいこと、10/18 昼以降静穏が続いていたため、11月12日±時期発生の可能性も考えられることを報告致しました。図1のとおり、CH29は10/18.3 (図1のA変動) から3日間静穏基線を記録し、完全静穏化の可能性も考えました。しかし本日午前09時過ぎ、短時間ですが変動が観測されました (図1のB変動)。10/18.5静穏化とした場合は、高知観測点のK1の変動も10/21には静穏化していないと整合しません。しかし図2のとおり、本日現在も静穏基線電圧値に復帰していません。このことからCH29は10/18.5段階では、まだ静穏化していない認識となります。CH29は26時間以上長く静穏基線が続いたことはありませんでしたが、今回は72時間も静穏基線が観測され、再び出現したB変動も微弱です。このことから11月16日以降発生の可能性が示唆されますが、極めて完全静穏化に近い見解を持ちます。上波形右側に11月17日から一週間内に発生となる場合の両観測装置の変動終息時期を掲載しました。まもなく2008年07月から13年4ヶ月継続となる過去例のない長期変動ですが、最大値では30観測装置に出現した前兆変動も、現在は主に上の2観測装置の変動のみとなりました。両観測装置の変動出現状況を鑑み、発生日を特定推定したいと考えます。

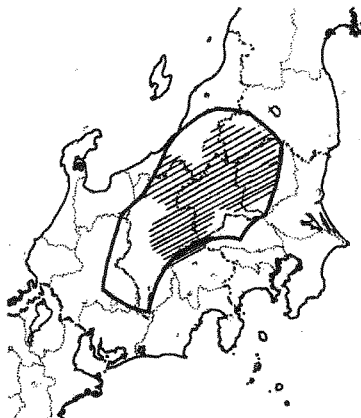


図3 太線内=推定領域
斜線域=参考推定領域

- ◆推定領域：図3太線内領域 火山近傍
斜線域=可能性考えやすい参考推定領域
- ◆推定規模：M8.0±0.3
直前に噴火前兆変動が観測されない限り
近傍火山の噴火の可能性は考えにくい
- ◆推定時期：CH29完全静穏化確認後計算予定
但し11月17日~22日頃の可能性もあり
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：AM 9:00±2 又はPM 6:00±2